

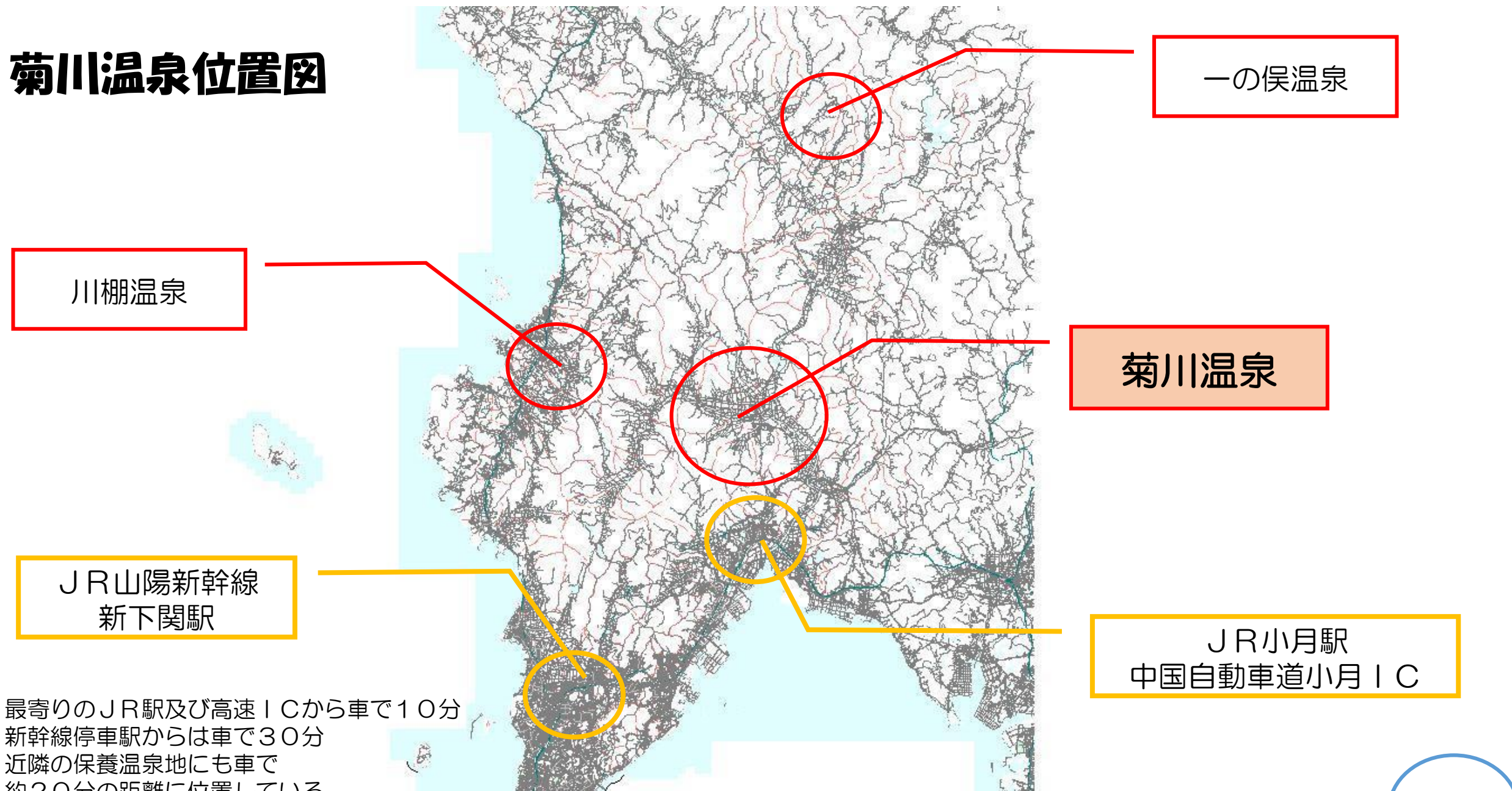
# 菊川温泉の活用について

菊川温泉及び関連施設の今後の活用

下関市役所菊川総合支所



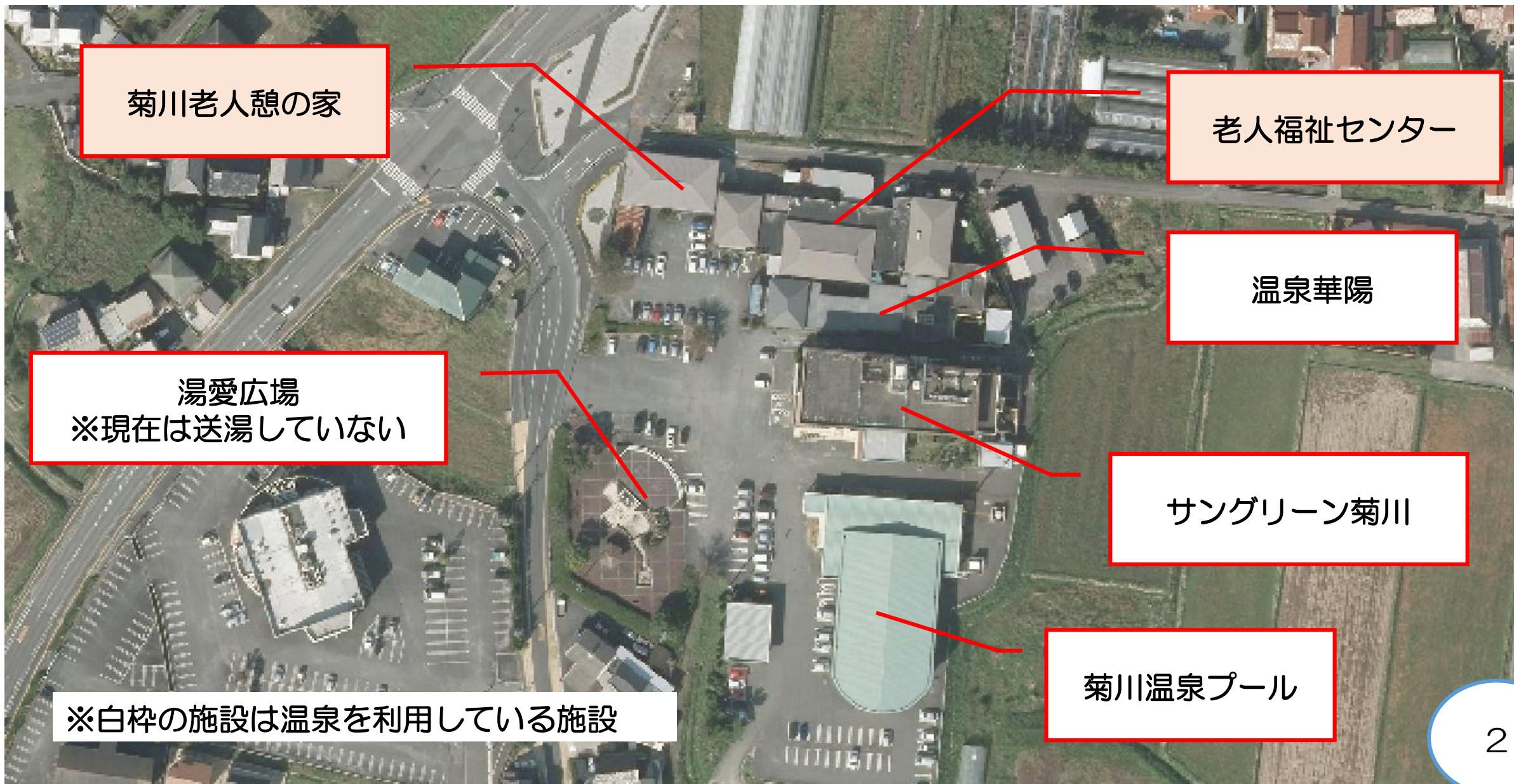
# 菊川温泉位置図



最寄りのJR駅及び高速ICから車で10分  
新幹線停車駅からは車で30分  
近隣の保養温泉地にも車で  
約20分の距離に位置している



# 菊川温泉関連施設位置図





# 菊川温泉泉源位置図





# 菊川温泉とは？



泉質：炭酸水素塩泉（ナトリウム－炭酸水素塩・塩化物泉）

山口県内の温泉は湯田温泉や湯本温泉に代表されるように単純温泉が主流ですが、菊川温泉は山口県内では珍しい炭酸水素塩泉で、ナトリウムイオン・炭酸水素イオン・メタケイ酸を多く含んでおり、とろみのある浴感が特徴の温泉とされています。

## ☞【菊川温泉泉源】

※白い設置物は貯湯槽（18t・12tが1基ずつ）

深度300mより汲み上げ（ポンプは地下70mに設置）

温度32.1℃ 毎分858ℓ（動力）

泉源から送湯管で各施設に温泉を供給。

## ◇温泉開発の経緯

大正7年（1918年）に有志により岡枝鉱泉営業合資会社が結成され、上保木湯谷から菊川町大字下岡枝船場に温泉水を管送し「船場温泉」を設置しましたが、昭和45年（1973年）に町に寄贈し、昭和48年（1973年）に「温泉華陽（現老人福祉センター）」が営業を開始しました。平成2年（1990年）に新たに泉源を掘削し、平成6年（1994年）に現在の「きくがわ温泉華陽」をオープンしました。

日帰り入浴施設



宿泊施設



各種施設が同一敷地内に隣接しており、  
一体的な運用が可能



スポーツ施設



イベントスペース



# 菊川温泉の問題点

機器・設備の老朽化による維持管理費が  
大きな負担となっている。

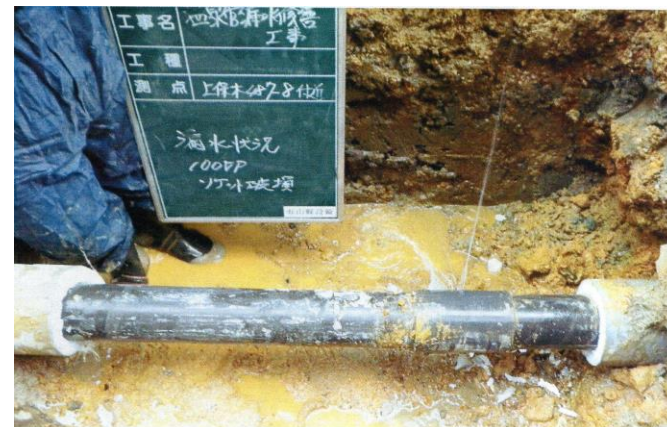
**特に**

温泉を汲み上げる揚水ポンプと  
温泉泉源から各施設に送湯している送湯管

- 温泉泉源から約1.5 kmの送湯管で各施設に温泉を供給しているが、送湯管自体は昭和47年に設置されたものであり（AV保温パイプ φ100mm）、老朽化のため頻繁に漏水が発生する。なお、送湯管の敷設替えには約1億8千万円の工事費が必要と試算されている。
- 泉源の揚水ポンプは地下に設置されており、故障すると地上に引き上げて交換しなければならない。※平成30年に更新（費用約240万円）

これまでの泉源・送湯管に係る修繕・工事  
（平成17年度～令和2年度まで）

**64件 25,852,402円**



# さらに • • • 各施設の老朽化による維持管理費の増大と利用者の減少



温泉華陽  
平成6年竣工



温泉プール  
昭和52年竣工  
平成24年建て替え



サングリーン菊川  
昭和55年竣工  
平成21年耐震補強工事

	平成29年	平成30年	減少率
温泉華陽	70,133人	63,217人	9.86%
サングリーン菊川	37,588人	35,737人	4.92%
温泉プール	58,277人	51,419人	11.77%

	平成30年	令和元年	減少率
温泉華陽	63,217人	62,965人	0.40%
サングリーン菊川	35,737人	35,291人	1.25%
温泉プール	51,419人	40,990人	20.28%

限られた予算の中で集客率UPに取り組むが、新規利用者の獲得ができていないのが現状。



# 温泉資源をどう生かしていくか



## 二つの考え方

### 保養型観光施設

- ① サングリーン菊川を保養宿泊施設として活用。
  - ② 温泉プールは、保養スポーツ施設としてこれまでどおり一般開放を行う。
  - ③ 温泉華陽は日帰り入浴施設として、隣接の老人福祉センター、老人憩の家とともに再整備して、保養施設との差別化を図り、一般客向けに利用料金を改定する。
- ※最近では滞在型温泉施設が人気。

### これまでの路線を継承

### 福祉（高齢者）施設

- ① サングリーン菊川を温泉が利用できるサービス付き高齢者用住宅として整備する。
- ② 温泉華陽に介護事業所を置き、隣接する老人福祉センター、老人憩の家とともに温泉が利用できる介護サービス事業所として整備する。
- ③ 温泉プールは健康増進施設として、高齢者以外の方の教室等の開催や一般開放を行う。

### 新たな取り組み



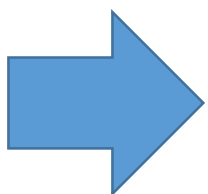
# 保養型観光施設として

今後、菊川管内において『地域再生計画』が策定されるが、温泉各施設は温泉を活かした観光施設としての位置づけを今後検討していく予定。



## 保養型観光の在り方

若者の二一ズの変化、企業の保養施設離れなど大きく変化する福利厚生の中で、保養所は時代とともにその価値・運営形態が大きく変わっていることを認識したうえで考えなくてはならない。



## 新たな保養型観光のスタイルの構築

案

- ①近隣企業の保養施設としての利用促進  
自前で施設が無くても割引等、優遇措置を受けられるような仕組み
- ②国民保養温泉地としての指定を目指した環境整備  
指定には環境省による条件があるため、指定に向けた取り組み
- ③コロナ後の外国人長期滞在者の取り込み  
2019年まで訪日外国人旅行者数は過去最高を更新していた



# 福祉（高齢者）施設として

今後、総人口が減少する中で、日本国内の65歳以上の人口は令和24年以降減少に転じるものの、高齢化率は令和47年には38.4%に達し、国民の2.6人に1人が65歳以上となると予想されている。

また、75歳以上人口の割合は、同じ令和47年には25.5%となり、約3.9人に1人が75歳以上の者となるとされている。  
（内閣府 令和2年版高齢社会白書より）



## 自然豊かな菊川の地域性を生かした今後の高齢化社会に向けたプランニング

- ①地域包括システムにあるように、自立できる高齢者支援と介護が必要な高齢者サービスに特化したサービス提供をめざす。
- ②核家族が増える中、健康なうちに終活に向けた取り組みができる拠点づくり

自立できる高齢者	⇒	見守り・温泉があるサービス付き高齢者住宅の需要
介護が必要	⇒	入所から看取りまで安心してサービスを受けられる温泉付きの介護施設
健康な高齢者	⇒	温泉プールを活用した健康増進活動 各施設の業務を高齢者自身が行えるような仕組みの構築



# まとめ

○老朽化している温泉、各施設について

民間活力の導入・民間主導により、温泉を利活用した新たな事業の可能性

保養型観光

福祉施設

他にどのような活用法があるか？

○市の方針

令和16年度までに「温泉華陽」及び「サングリーン菊川」については民間譲渡する方向であるが、温泉プールも含め、一体としての取り組みが必要と考えられる。



温泉・各施設の整備を行う際、温泉管敷設などの整備費用を譲渡価格から差し引くなど、民間活力が参入しやすい環境を早急に検討していく。